



災害に立ち向かう団結力

本年3月11日に発生した東日本大震災は、原発事故も加わり未曾有の巨大災害となりました。太平洋沿岸を中心に大津波等による死者行方不明者が約2万人に上るなど、戦後最大の被害をもたらしました。決して、想定外の災害では、済まされません。大自然の猛威の前には、一人一人では、あまりにも微力です。日頃からの備えと団結して行く事が大切だと思います。

あなたにもできることがあります。

あなたの想いで、守れる町がある。
あなたの想いで、救える命がある。
あなたの想いで、深まる絆がある。



消防団活動の重要性

二宮町消防長 加藤 義 則



秋も一段と深まってきましたが、皆様におかれましては、お変わりはないでしょうか。本年の4月に消防長に就任しました加藤です。

毎日、消防長の責任の重さをひしひしと感じながら誠心誠意をこめて頑張っております。消防団の皆様には、常日頃自分の仕事を持ちながら、非常時には我が身も忘れ献身的な活動をしていただき、心から敬意を表し、厚くお礼申し上げます。

本年は3.11の東北における大地震を皮切りに、9月には台風12号で紀伊半島に甚大な被害をもたらし、さらに同月の台風15号では、二宮町に過去にない風台風の影響で、230件を超える大被害となりました。当日は、非番職員の召集さらには全消防団員も召集し、活動にあたりました。

広範囲にわたる被害と同時発生した多数被害の対応が、消防団の活躍で無事に消防の目的とする趣旨を果たすことができました。これもひとえに消防団員のお陰と感じているところです。

また、最近では首都直下型地震や東海地震も叫ばれており、今後の地震発生も懸念されているところです。

最後に、二宮町の町民が安全安心に寄せる関心は、益々高くなっておりますので、消防団員の皆様には今後ともお世話になりますが宜しくお願い致します。

やってみたい消防団 やってよかった消防団 二宮町消防団長 杉崎 一夫



日頃より町民の皆様には、消防団の活動に深いご理解とご協力を賜り、心より感謝し御礼申し上げます。

3月11日の東日本大震災をはじめ台風による土砂災害や風水害等、今年は大変甚大な自然災害が多数発生し多くの方が被災されました。そして多くの消防団員も同様に被災されております。しかしながら、自身が被災しているにも係わらず住民の避難誘導、行方不明者の捜索、避難所での援助活動等々寝食を忘れ活動している姿は、まさに消防団員の誇りと郷土愛と使命遂行の心の現われだと思えます。同じ消防団員の仲間として尊敬し心打たれる気持ちで一杯です。

私達二宮町消防団員78名も、日ごろの訓練や家族慰安会などでより一層の団結力と絆を深め心一つにして、「安全で安心して暮らし働ける町」と「やってみたい消防団 やってよかった消防団」を目途に日々活動に励んでいます。あなたも是非「新たな消防団の力」と成るべく参加してみませんか！！

柏崎刈羽原発視察

3.11東日本大震災



昨年の10月24日(日)、消防団幹部研修(総勢14名)で新潟県にある柏崎刈羽原発に視察訪問しました。視察するには、事前に身分証明を提出し、当日も運転免許証にて本人確認をしたのち、敷地内に入場が許可されると言う嚴重なもので、誰でも簡単に視察できるものではない印象を受けました。しかし10年前に起きた9.11のアメリカ同時多発テロまでは、事前の申込みや身分証明の確認、原子炉建屋内の入場は、勿論の事、原子炉の直上まで入室ができ、記念撮影まで簡単に出来ていたと、担当者から聞いて、大変驚きました。



5分の1原子炉模型で説明を受ける(展示ホール)

今回は、原子炉建屋を遠くから見られる高台より視察し、近づく事は出来ませんでした。また、担当者より、この原発の説明を受け、こちらからの質問にも、大変分かり易く答えて頂きました。この時の印象は、原発は大変安全に管理されていて、全ての事故に対して二重、三重の安全対策が施されている。何ら心配する事のないと言う、返答でした。

しかし、その5ヶ月後の3月11日に福島第一原発が、東日本大震災による大津波の影響により、(同型の柏崎)

新入団訓練 平成23年4月：二宮小学校校庭

平成23年度の新入団員は、10名。消防署員の指導のもと、基礎訓練が行われました。



ロープ結索講習

消防ふれあいコーナー 平成22年11月7日(日)

「湘南にのみやふるさと祭り」のイベント会場に「消防ふれあいコーナー」を設け、消防車両展示、水消火器での消火訓練他を行いました。(第五分団協力)



合同訓練 平成23年 3月6日(日)

出動体制の確立・防衛体制の向上を目的に、5ヶ分団と消防署の合同訓練を実施。



消防出初式 平成23年 1月9日(日)

恒例の消防出初式は、山西小学校校庭で、晴天の中、盛大に行われました。二消会(消防OB会)の皆さんによる古式消防の演技が披露されました。



消防団は？ 「災害に立ち向かう団結力」

➤刈羽原発であれだけ安全だと聞いていた原発が…) いざ、天災が起きたなら、人間の英知を結集させ作った物など、自然の力には、かなわない物だと改めて実感した。あの安全の話は何だったんだろうか？疑問が残った。

今回、3月11日のM9.0の大震災による津波警戒にも、二宮町消防団(第一分団、第二分団、第三分団)は、消防署と連携し、迅速に海岸線の警戒、警備にあたりました。

この震災を期に、見直されている消防団の存在、そして、必要性が、一人では守れない災害に対しても、組織としてなら何倍もの力になり、地域を守る事が出来る。

しかし、全国的に見ても、消防団員の減少は、歯止めが利かず、毎年、減少の一途を辿っています。二宮町も同様、消防団は、なくてはならない組織です。

消防団員は、日頃より有事に備え、訓練を積み重ね、消防署と5ヶ分団が連携し、組織的に訓練を行う事で、より強い消防団ができ、また全分団合同での親睦会、スポーツ大会等での団員同士のコミュニケーションの深まりや地域を守ると言う同じ志が、有事の際、災害に立ち向かう団結力を生み、強い絆になっているのだと思います。

二宮町消防団、そして、団員は頑張っています。これからも、応援を宜しくお願い致します。

(第二分団 添田)



体力錬成大会 消防職団員の体力・士気高揚・親睦を深めることを目的に毎年実施、ソフトバレー等を行います。

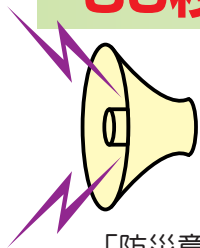


消防団親睦会

7月31日(日) 梅沢海岸で地引網&バーベキュー



30秒間サイレンが鳴ります。夜9時（火災予防運動期間中）



秋の火災予防運動 11月 9日～15日
 歳末火災特別警戒 12月25日～31日
 春の火災予防運動 3月 1日～ 7日

期間中、「火の元点検」を啓発するため21時より30秒間サイレンを鳴らします。火災が発生しやすい季節なので、御理解のほど、よろしくお願いします。

「防災意識を高めるよう」消防車による広報活動・巡回の他、消火栓・防火水槽の点検等を行います。

うちの名物団員

第五分団 分団長
 渡邊 恒文

『日本消防』（財）日本消防協会発行の全国紙の「うちの名物団員」に掲載されました。



見た目の通り柔らかい物腰で、いつも冗談を言いながら団員にマメに声をかけてくれます。また、固定観念にはとらわれることなく、良いと思ったことはどんどん取り入れています。これは、団員のやる気を刺激しながら、技術レベルの向上を常に考えていることの現れだと思えます。

こんな渡邊分団長は、町内の小学6年生対象の夏キャンプに毎年参加したり、小学校でのパソコン授業で教えたりと、地域とのつながりを大事にしている人です。

殉職消防団員特別見舞金について



被災した消防車

去る3月11日の東日本大震災により、極めて多数の消防団員が殉職されました。殉職された団員は他に職業をもち、しかも被災した身でありながら、危険を顧みることなく、地域住民の安全のために活動されました。深く敬意を表しますとともに、心から冥福をお祈り致します。

消防団の仲間（同士）として、できる事はないかと考えていたところ、（財）日本消防協会で「殉職消防団員特別見舞金」へのご厚志を募っている事を知りました。二宮町消防団として見舞金を募りました。

東日本大震災に伴う殉職消防団員特別見舞金 ¥310,000
 （消防団本部、5ヶ分団、各分団OB会、二消会）

尚、募金（見舞金）は、消防関係者に限らず、一般の方々のご厚志もお受けしています。（平成23年12月末まで）



被災した女川消防署

今後においても地域の安全を確保し、住民の生命身体財産を守るうえで、消防団は不可欠であります。

今回の教訓として、消防団員自身の安全を確保しながら、消防団はこれからもいろいろな面で連携を強め、力を合わせて使命を果たさなければなりません。

がんばろう日本！

消防団員募集

「自分たちのまちは、自分たちで守ろう。」

成人男子の方で消防団活動に協力して下さる方を広く募集しています。より多くの方に消防団活動を経験してもらい、地域防災の一翼を担っていただきたく願います。任期・活動内容等は各分団ごとにこととなります。



公務災害補償制度
 被服の貸与
 退職報償金
 表彰制度

問い合わせ
 消防本部 消防課
 庶務班
 ☎72-0015

第一分団（川匂・釜野・越地・茶屋・梅沢）
 第二分団（上町・中町・下町）
 第三分団（元町・富士見が丘1・2・3丁目・松根）
 第四分団（中里・百合が丘1丁目）
 第五分団（一色・緑が丘・百合が丘2・3丁目）

消防団は、通常は自らの仕事を持ちながら、「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛護の精神に基づき、地域の人たちのため、社会のために活動している人の集まりです。